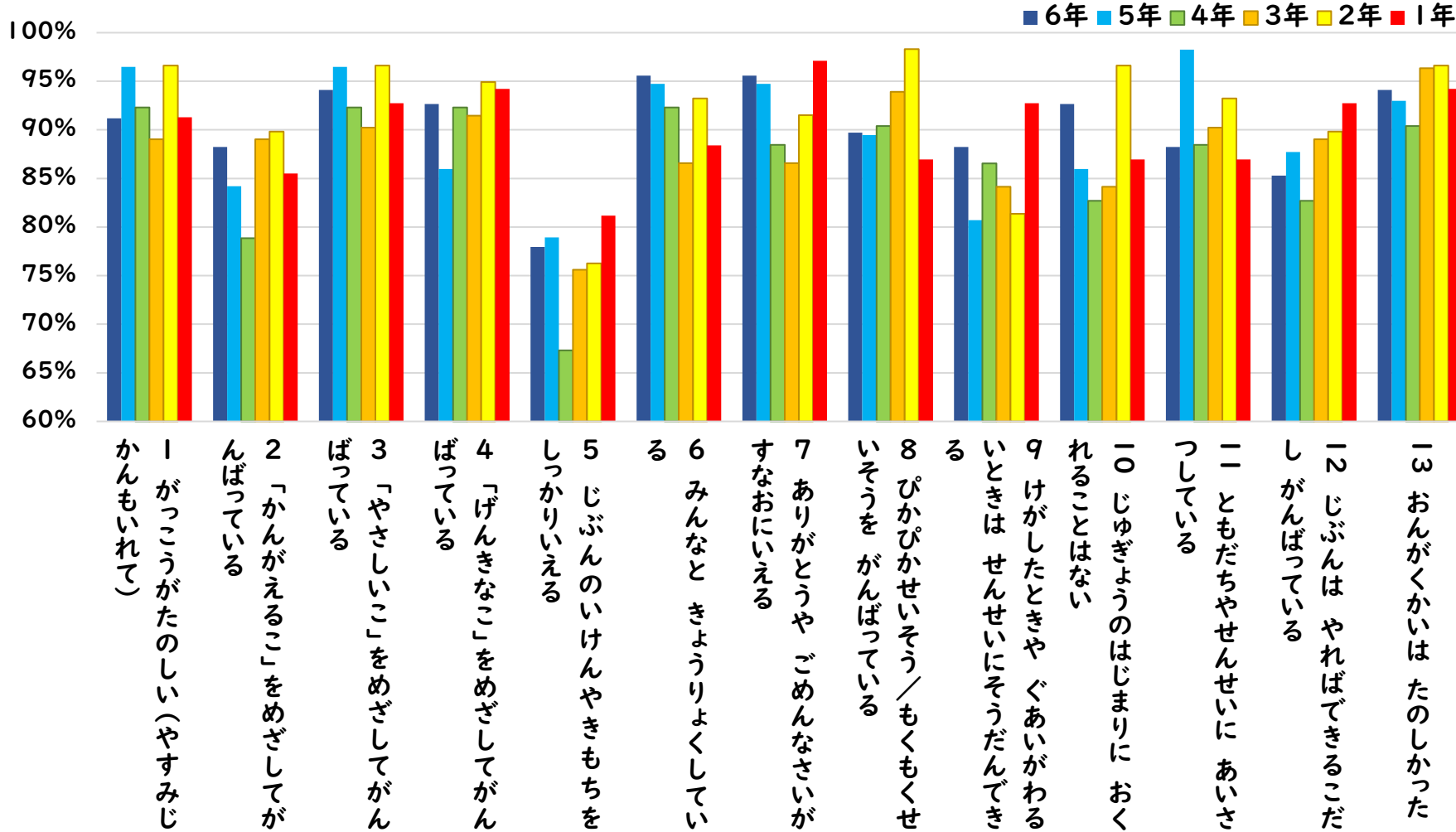




こんがっきのわたしたち (12月実施)



みんなで高めあった2学期 気持ちを伝える力も向上

前号での保護者アンケートに続き、子どもたちの自己評価を紹介してまいります。

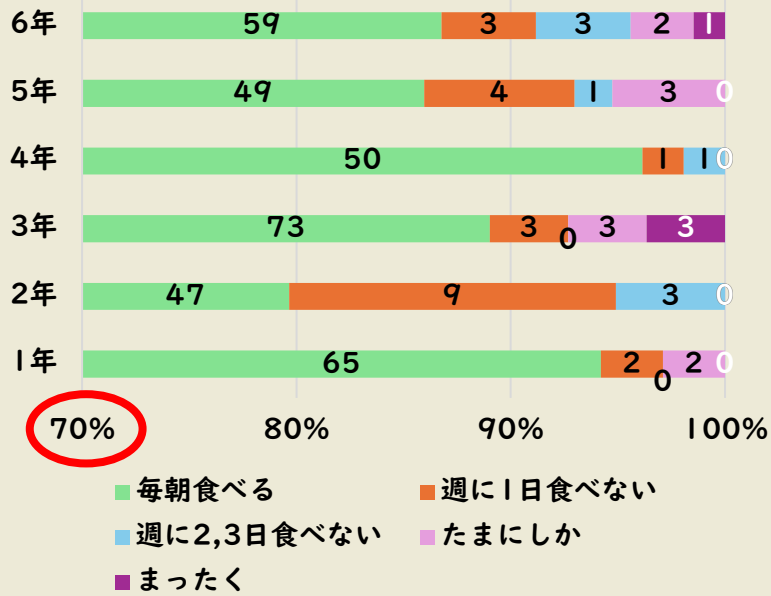
「②考える子」、「③やさしい子」、「④元気な子」は、どれも高めでも良いことですが、今学期は「やさしい子」が一番でした。

「⑤自分の意見や気持ちをしっかりと伝える」は、全体の中では低めですが、実は昨年同時期の全校平均が69%だったのに対し、今年76%と大きく向上しています。

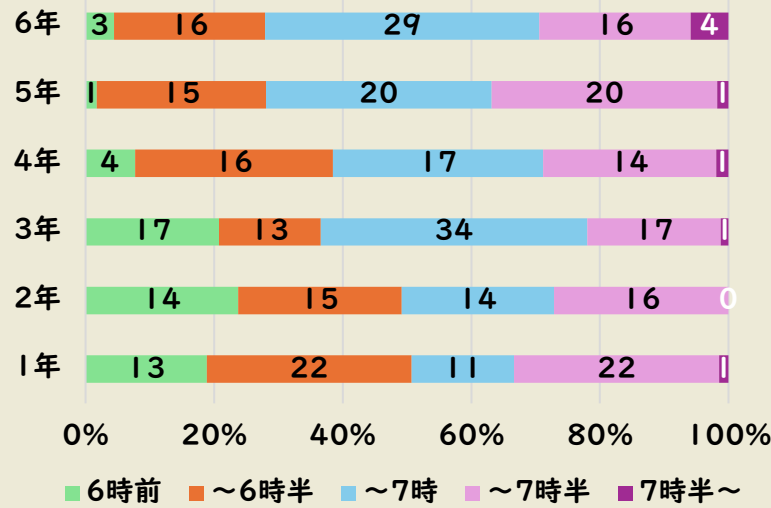
全教科で「主体的・対話的で深い学び」を進めながら、特に国語では2年にとわって「自分の考えを表現する力の育成」の研究を進めるなど、さまざまなアプローチの成果が表れたものと捉えています。

保護者アンケートで課題となった「①学校が楽しい(と感じている)」については、も、この伝える力がご家庭でも生かせるよう、今後も傾聴や共感的受容のご協力をお願いいたします。

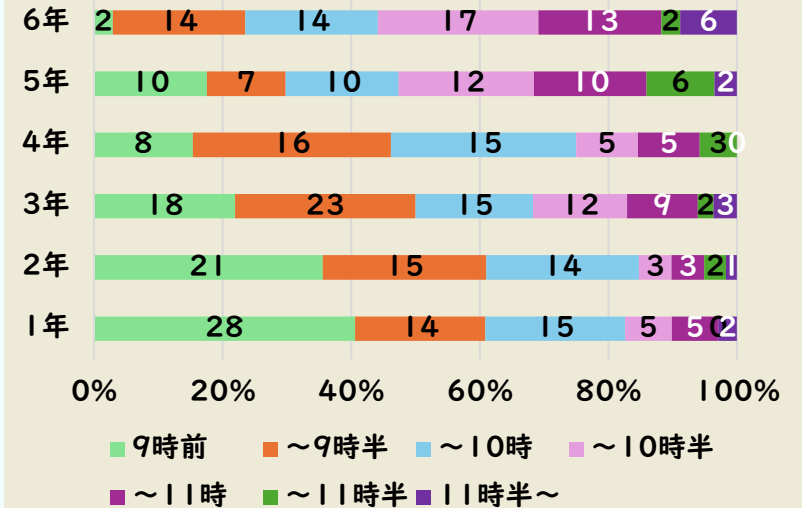
がっこうがあるひのあさごはんについて



がっこうがあるひのおきるじこくについて



がっこうがあるひのねるじこくについて



1面の児童アンケートの続きです。グラフの中に書かれている数字は人数で、朝ごはんのグラフだけ目盛りの左端が70%になっています。

「おきるじこく」が7時半よりも後という児童が各学年で20名近くいるようで、登校班の出発時刻を考えると、朝食をとる十分な時間がないように思われます。

「ねるじこく」では、学年が上がるにつれておそくなっていくのがよく分かりますが、低学年でも11時過ぎという子が気になります。「ねる子は育つ」の言葉通り幼少期の睡眠は人生の貯金です。

この休み中も、しっかり朝日を浴び、タブレットやゲーム機などブルーライトは寝る前から1時間以上あけた生活ができるよう、ご家庭でもお声がけをお願いいたします。

冬休み中も 「はやね、はやおき、あさごはん」

冬休みチャレンジ

前号でもお知らせしましたが、夏休みと同様、日々の生活を記録するサイトを留意しています。学習面、生活面、健康面についてできたことをチェックし、その日の出来事など一行日記をつけさせてみてください。この「一行日記」は、書き出しを「きょうは」で始めません。また、最後に「たのしかった」「うれしかった」など気持ち(感想)を書くのではなく、出来事や物事をよく観察して、そのまま書いてみましょう。

×おせちがおいしかった。
○初めてこぶまきを食べた。かんぴょうがかみきれなくて中からごぼうがとび出した。

×はつもうでがたのしかった。
○おみくじで大吉が出た。姉は末吉だったのをなかなか言おうとしなかった。

×テレビで駅伝がおもしろかった。
○駅伝を見ていて、歩道を走っている子は、みんな全速力だった。

×プレゼントがうれしかった。
○ほしかったものももらえたけど、妹のほうがちよっと高そうだった。

新幹線のホームからの中継で「楽しかった?」と聞かれた子が、「楽しかった」とオウム返ししているのを見るたび、「どこに行っても外国の人ばかりで日本語が聞こえてこなかった」とか「おばあちゃんが最後にぎゅっと抱きしめてくれたときのおい音がまだ残っている」などと言えたら素敵だなあ、と思います。

「おいしい」と思ったら、口の中でとろけたのか、かんだらいい音がしたのか、香りが鼻に抜けたのか、「おいしい」の前に何が起きたのか、五感をフル回転させてみましょう。

この時、周りの大人は「なぜおいしいと思ったの?」と聞き返すよりも、「春の香りだね」とか「味がしみだしてくるね」など、ちよっと言葉を足してあげるのが良いようです。

実は、子どもは苦手な食べ物についてのほうがよく観察しています。「○○みたく○○じゃない(のでおいしい)」から始めてみるのも手です。ともあれ、おせちも、プレゼントもやがて「マジでヤバイ」となってしまう前に、ぜひ観察眼を養っておきましょう。

おかげさまの心

(終業式での話)

毎月、みなさんが体育館で整列する様子や、退場していくのを見送っています。最近、大きくなったなあと感じています。毎月見ている私ですら思うので、すから、久しぶりに皆さんと会う人は、きつと驚くことでしよう。

さて「大きくなったねえ」と言われたら何と答えますか。だまっていなくて「ありがとうございます」と言えれば合格です。え、まだ何ももらっていないのに、などと思っはいいけません。

もっと素敵な返事は「おかげさまです」です。でも、大きくなったのはご飯を食べて運動して、たっぷり寝ているからで、そのご飯を作って洗濯して布団を干してくれているのはうちの人のな、なんで久しぶりに会う人に「おかげさま」なんて言うのかな、と思う人もいるかもしれませんね。

あなたはこの2学期、その人のことを思い出したことがありますか。

きつとその人は、自分の住む町で小学生を見かけた時や、テレビで小学生が映った時、もしかしたら、あなたの好きな果物をお店で見かけた時にも、「元気になっているかな」とか、「何年生になったんだっけな」と思い出し、今度はいつ会えるだろうと楽しみにしているのです。

毎日お世話をしてくれるおうちの人にはもちろん、そうやって陰で思っくれている人にこそ、「おかげさま」です。

何度もお話していますが、みずほ台小学校の校章は、秋にお米が実ったとき、だんだんとたれ下がるいなほ、「たりほ」の様子を表しています。

大きくなるほど、頭がよくなるほど、ふんぞり返るのではなく、感謝の心を持てるのが、ここにいるみなさんです。

もし、久しぶりに会う人から「はい、どうぞ」と何かをいだいたたら、ものではなく、しっかりと相手の目を見て「ありがとうございます」と言います。

それでは、よい年を迎えてください。

たすきをつなぐ 水子貝塚駅伝



絶好のランニング日和となった12月8日(日)、水子貝塚駅伝大会が行われました。低学年から高学年まで多数の児童が参加し、昨年の雪辱を果たせた子や、来年に向けて目標ができたという子もいました。本校職員も役員や応援団として参加し、子どもたちが懸命にたすきをつなぐ姿に胸を熱くしました。保護者の皆さまには、今年も安全な引率やスムーズな大会運営にご協力いただき、ありがとうございました。

地域の高齢者とのふれ合い



地域の中で、みなさんとともに子どもたちは成長しています

社会福祉協議会のご協力により、グランドゴルフで健康づくりをされている方々や、目や耳の不自由な方々、校地内にあるデイサービスの方々などとふれ合ってきた3年生。今回は、グランドゴルフでお世話になった方々をお招きし、昔の遊びについてインタビューしたり、コマづくりやビーズ細工を教えていただいたり、音楽会での歌を元気に披露したりしました。コロナ禍で途切れていた高齢者の方々との交流も徐々に復活し、ありがたいことです。

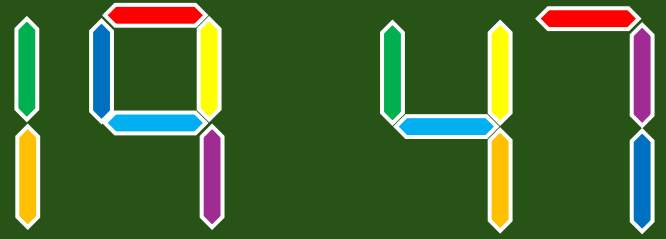
あ た ま の た い そ う

※通常、9については、もう1本多いものが使われますが、ここではあえてこの形にしています。

デジタル数字は7本の棒でできています。
7本をすべて使って、右のような二けたの数を作ります。



- ① いちばん大きな数は何になりますか。
- ② 0より大きいもので、いちばん小さな数は何ですか。
- ③ 0より小さな数もふくめると、どうなりますか。



(1本はマイナスとして使うので、数字は6本で作ります)

校長室前のホワイトボードで大きな行事までのカウントダウンに使われたきた、画用紙とマグネットでできたデジタル数字。ある朝、①の問題を掲示しておいたところ、1時間たって戻ってきたら正解が作られていました。あわてて②を表示したところ、昼休みにはなんと③まで考えられていたのです。(マイナスはまだ習っていないよという声も聞こえてきましたが、この日の最低気温は氷点下でした。)

試しに、棒を2本使って1という数字を作ったら、残りの5本で2, 3, 5, 9が作れる。すると、この中の組み合わせでいちばん小さい二けたの数字といえば…、逆に大きいのは…と論理的に考えられるようになっていきます。

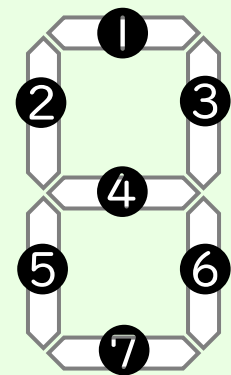
パズルにしてもブロック遊びにしても、まずは、**実際に手を使って並びかえてみて試行錯誤しながら、条件のもとでできることとできないことに気づいていく過程が大切**です。

子どもたちの様子を見てみると、「だから10の位が大きい方がいいって」とか「え、まって、ちょっとまって」「それっておりじゃない？」など、主体的・対話的な様子が感じられました。授業でも**説明しすぎに留意し、十分に試行錯誤させながら、時にはあえて条件外のことを示して気づかせつつ、「それをまとめてみようか」などと論理的思考・表現に導いていく流れが重視**されています。

数字	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
使う本数	6	2	5	5	4	5	6	3	7	5
残りの本数	1	5	2	2	3	2	1	4	0	2
つくれる数字	×						×		×	



【発展課題】 デジタル数字を使って、9、8、7…と0までカウントダウンするプログラムを考えてみましょう。表で黄色くなっているところは、その数字に必要な棒です。(3から9については自分で考えてみましょう)



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
0	■	■	■	■	■	■	■
1			■				
2	■		■	■	■		■
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							

この冬休み、将棋やおセロなど一手先を考えるゲームやパズルに親子で触れてみませんか